

6 内部生と外部生の違いについて

小野 史恵

6.1 はじめに

今回の調査で私は世間一般にいわれている内部生、ならびに外部生の特徴や違いについて統計という客観的資料を用いて事実かどうかを見極めようと思う。その際、中高時代の勉強の仕方の違いが大学生活や成績にどう反映しているかという点に重点をおいてみたい。

アンケートでは推薦入試（指定校・公募）やAO入試という項目があったが、外部生・内部生とも毛色の違うものということでデータからは除外することにした。

6.2 基本的特徴

一般に内部生の特徴としてあげられるのは、自宅生が多いこと、女子高の存在から女子の割合が比較的高いことなどが上げられる。まずそれらを統計でみてみることにする。

表 1 内部生・外部生と居住形態

		自宅	下宿	合計
外部生	度数	107	122	229
	%	46.7%	53.3%	100.0%
内部生	度数	68	9	77
	%	88.3%	11.7%	100.0%
合計	度数	175	131	306
	%	57.2%	42.8%	100.0%

p=.000

まず自宅生の割合である。内部生の約9割が自宅から通っている。外部生は少し下宿が多いくらいでどちらも同じ割合となっている。

表 2 内部生・外部生と性別

		男性	女性	合計
外部生	度数	113	119	232
	%	48.7%	51.3%	100.0%
内部生	度数	20	59	79
	%	25.3%	74.7%	100.0%
合計	度数	133	178	311
	%	42.8%	57.2%	100.0%

p=.000

次にそれぞれの男子と女子の割合をしてみる。内部生は女子が約7割と偏りがある。外部生はこちらも半数ずつとなっている。

次に外部生の志望度を見る。

表 3 外部生の大学への志望度

第一志望	第一志望	第一志望意外	第一志望以外	合計	
		(国公立志望)	(私立他大志望)		
外部生	度数	131	76	27	234
	%	56.0%	32.5%	11.5%	100.0%

表3をみると、同志社大学が第一志望ではない人は234人中113人と全体の4割を占めていることがわかる。データ上では省いたが、内部生は98%が第一志望となっている。こちらも本当に行きたいのか、それとも行くのが楽だからという理由からなのか同じ内部生でも個人の志望度は違うだろう。

内部生は受験をしないために勉強癖がついていない。エスカレーター式で大学へ入ることができるため勉強をしないで入学してくるというように言われることがある。それでは成績はどうなっているのだろうか。

表 4 学科と GPA

学科			GPA		合計
			2.49以下	2.50以上	
社会学	外部生	度数	19	23	42
		%	45.2%	54.8%	100.0%
	内部生	度数	9	12	21
		%	42.9%	57.1%	100.0%
	合計	度数	28	35	63
		%	44.4%	55.6%	100.0%
社会福祉学	外部生	度数	12	33	45
		%	26.7%	73.3%	100.0%
	内部生	度数	6	13	19
		%	31.6%	68.4%	100.0%
	合計	度数	18	46	64
		%	28.1%	71.9%	100.0%
メディア学	外部生	度数	14	21	35
		%	40.0%	60.0%	100.0%
	内部生	度数	2	14	16
		%	12.5%	87.5%	100.0%
	合計	度数	16	35	51
		%	31.4%	68.6%	100.0%
産業関係学	外部生	度数	29	18	47
		%	61.7%	38.3%	100.0%
	内部生	度数	7	2	9
		%	77.8%	22.2%	100.0%
	合計	度数	36	20	56
		%	64.3%	35.7%	100.0%
教育文化学	外部生	度数	26	29	55
		%	47.3%	52.7%	100.0%
	内部生	度数	6	3	9
		%	66.7%	33.3%	100.0%
	合計	度数	32	32	64
		%	50.0%	50.0%	100.0%

メディアのみ $p<.05$

表 4 は GPA を大きく二分し、内・外部生と学科ごとにみたものである。社会学科は内部生が微妙に成績が高いもののほぼ変わらない。社会福祉学科は、外部生の方に成績優秀者が少し傾いている。メディア学科は顕著で、外部生も他と比べたらいいものの、内部生の成績優秀さが際立っている。産業関係学科は他学科よりも成績が悪い傾向にあり、特に内部生が悪い。教育文化学科は外部生の半数以上が優秀であるのに対して、内部生は悪いほうに傾いている。学部学科でかなり成績の良さが違うことがわかる。内部生の学科選択は成績順で決まるため、人気の高い学科は成績優秀者で埋まりやすい。内部生に限ってはそういったシステムが反映された結果といえるだろう。

6.3 勉強への姿勢

それでは学部でこの割合は違って来るのだろうか。社会学部に入った外部生と内部生で勉強に対する意識の違いがあったのだろうか。それを確かめるために高校3年次の成績をみてみることにする。

表 5 内部生・外部生と高校3年時の成績

高校3時の成績		上のほう	中の上	中ぐらい	中の下	下のほう	合計
外部生	度数	50	73	44	26	41	234
	%	21.4%	31.2%	18.8%	11.1%	17.5%	100.0%
内部生	度数	15	22	26	8	8	79
	%	19.0%	27.8%	32.9%	10.1%	10.1%	100.0%
合計	度数	65	95	70	34	49	313
	%	20.8%	30.4%	22.4%	10.9%	15.7%	100.0%

p=.101

表5によるとむしろ外部生のほうが成績上位者が多く、内部生は中ぐらいが一番多くなっている。もう1つのデータ、授業前に予習復習をするかという点から双方の勉強の勤勉さを見てみる。

表 6 内部生・外部生の予習・復習への意識

予習・復習をしたか	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計	
外部生	度数	7	82	97	45	231
	%	3.0%	35.5%	42.0%	19.5%	100.0%
内部生	度数	4	19	35	19	77
	%	5.2%	24.7%	45.5%	24.7%	100.0%
合計	度数	11	101	132	64	308
	%	3.6%	32.8%	42.9%	20.8%	100.0%

p=.292

表6を見てもそれぞれ微少な差はあるものの双方にそこまで違いはない。これで一概に受験の有無が必ずしも勉強に対する姿勢、成績の良し悪しに関係しているとはいえないことがわかった。

6.4 学費工面が成績の低下に関係しているのか

学費がかかる私大に入って勉強に励むゆとりがないという可能性はあるのだろうか。次に18歳当時の家の豊かさを見てみる。

表 7 内部生・外部生と家の経済状態

家の豊かさ(18歳時)		豊か	やや豊か	ふつう	やや貧しい	貧しい	合計
外部生	度数	25	85	97	21	7	235
	%	10.6%	36.2%	41.3%	8.9%	3.0%	100.0%
内部生	度数	17	31	27	4	1	80
	%	21.3%	38.8%	33.8%	5.0%	1.3%	100.0%
合計	度数	42	116	124	25	8	315
	%	13.3%	36.8%	39.4%	7.9%	2.5%	100.0%

p=.096

内部生の豊かという答えが若干多く、外部生のやや貧しい・貧しいという答えが内部生よりも見受けられる。そこまで大きな差がないのは、志望度がどうであれ結果私立である同志社大学に来るだけの経済状況であり、この指標が個人の感覚に委ねられているためだ。何をもって貧しいとするか、何と比較するかは個人のいた環境に左右される。客観的な数値で比べればまた違うデータがでるだろう。このデータからいえることは内外部生問わず財政的な面で苦勞している状況ではあまりないことである。

表 8 内部生・外部生とアルバイトの期間

アルバイトの期間		していなかった	1年より短い	1年～2年	2年～3年	3年以上	合計
外部生	度数	8	22	32	54	113	229
	%	3.5%	9.6%	14.0%	23.6%	49.3%	100.0%
内部生	度数	3	2	8	8	56	77
	%	3.9%	2.6%	10.4%	10.4%	72.7%	100.0%
合計	度数	11	24	40	62	169	306
	%	3.6%	7.8%	13.1%	20.3%	55.2%	100.0%

p=.005

表 8 を見るとアルバイトをしている学生がほとんどである。外部生の場合、早々に辞めているのか、もしくは短期のバイトなのか1年より短いのがより多く、内部生は3年以上

が7割を超えている。1年以下のアルバイトが多いという結果は、成績が下がるくらい大学の勉強よりもアルバイトに力をいれているとはあまり思えない。

それでは対してサークル活動についてはどうなのか。

表 9 内部生・外部生とサークル活動の頻度

サークル・同好会		よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
外部生	度数	92	50	33	52	227
	%	40.5%	22.0%	14.5%	22.9%	100.0%
内部生	度数	23	14	9	27	73
	%	31.5%	19.2%	12.3%	37.0%	100.0%
合計	度数	115	64	42	79	300
	%	38.3%	21.3%	14.0%	26.3%	100.0%

p=.125

表 9 では逆に外部生のほうがサークルの頻度が高いほうにデータが偏っている。内部生はどちらかというとしなかったという人が多い。外部生はよりサークルに、内部生はよりアルバイトに力を入れているということがいえよう。

6.5 内部生はまじめなのか

内部生が外部生より成績がいいのは真摯に授業に取り組んでいるからなのだろうか。

表 10 内部生・外部生別の授業中に私語をするかどうか

授業中に私語		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
外部生	度数	6	75	85	65	231
	%	2.6%	32.5%	36.8%	28.1%	100.0%
内部生	度数	7	34	22	14	77
	%	9.1%	44.2%	28.6%	18.2%	100.0%
合計	度数	13	109	107	79	308
	%	4.2%	35.4%	34.7%	25.6%	100.0%

p=.010

表 10 からは内部生が特別まじめというわけではなく、むしろ外部生より私語が多いことがわかる。私語だけでは授業を聞いていないとは断定はできないので、板書以外の内容を筆記しているかという項目で授業をきちんときいているかを判断する。

表 11 内部生・外部生と高校3年時の成績

板書以外の内容を筆記		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
外部生	度数	57	120	40	14	231
	%	24.7%	51.9%	17.3%	6.1%	100.0%
内部生	度数	29	26	19	3	77
	%	37.7%	33.8%	24.7%	3.9%	100.0%
合計	度数	86	146	59	17	308
	%	27.90%	47.40%	19.20%	5.50%	100.00%

p=.022

表 11 では私語の多いという結果だった内部生のほうが筆記する割合が多い。「ややあてはまる」に外部生が集中している。「あまりあてはまらない」と答えるのは内部生が多めだが、「あてはまらない」というのは外部生が内部生より多い。上記とは矛盾した結果となった。このデータから、外部生は意欲があっても板書以外の内容を筆記することにあまり必要性を感じておらず、必要ならばする。という人が多く、板書のみで十分だと考える人が内部生より多い。内部生は板書以外の内容を筆記することに関心があるひとが多く、意欲のある人は板書以外の内容をよく筆記する傾向にあるということが推測できる。

6.6 内部生は知り合いが多いため成績がよいのか

それでは外部生より内部生の成績がよいのは、過去問の取得が容易であり、自分に合った講義を吟味できるなど高校の先輩や同回生のコネがあるために情報が豊富で結果単位がとりやすくなっている、ということも考えられる。

表 12 内部生・外部生の相談相手がどこに所属しているか

つくりやすい関係	同学科				他学校					
		いる	いない	合計		いる	いない	合計		
	外部生	度数	211	18	229	外部生	度数	200	27	227
		%	92.1%	7.9%	100.0%		%	88.1%	11.9%	100.0%
内部生	度数	70	7	77	内部生	度数	65	11	76	
	%	90.9%	9.1%	100.0%		%	86%	15%	100%	
合計	度数	281	25	306	合計	度数	265	38	303	
	%	91.8%	8.2%	100.0%		%	87.5%	12.5%	100.0%	
		p=.733					p=.557			

つくりやすい関係	同学科 (先輩・後輩)				他学部 他学科					
		いる	いない	合計		いる	いない	合計		
	外部生	度数	100	128	228	外部生	度数	189	38	227
		%	43.9%	56.1%	100.0%		%	83.3%	16.7%	100.0%
内部生	度数	33	44	77	内部生	度数	70	6	76	
	%	42.9%	57.1%	100.0%		%	92.1%	7.9%	100.0%	
合計	度数	133	172	305	合計	度数	259	44	303	
	%	43.6%	56.4%	100.0%		%	85.5%	14.5%	100.0%	
		p=.878					p=.058			

表 12 は相談相手有無のデータを相手ごとにまとめたものである。外部生にもつくりやすいと思われる人脈である同学科の相談相手、むしろ外部生のほうがつくりやすい人脈と思われる他学校にいる相談相手を上段に、同学科でも先輩や後輩など大学に入ってからのはつくりにくいであろう相談相手、そして他学部・他学科を内部生のつくりやすいと思われる関係として下段にまとめた。このデータからは細かくみなくても内・外部生でさほど違いがないことがわかる。それぞれほんの少し傾いているのみである。同学科の先輩、後輩にあたっては割合的に変わりはないともいえよう。内部生といっても、付属校時代に交流のあった先輩が同じ学科にいるということは珍しいのかもしれない。情報収集の容易さと相談相手の有無というのはそこまで一致しないが、内部生だからといって特別周りに知り合いばかりいる、という状況ではないことがわかる。

6.7 内部生は積極的か。

表 13 で授業態度から積極性をみていく。

表 13 内部生・外部生とディスカッションへの参加具合

ディスカッションに参加		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
外部生	度数	29	112	78	12	231
	%	12.6%	48.5%	33.8%	5.2%	100.0%
内部生	度数	15	40	21	1	77
	%	19.5%	51.9%	27.3%	1.3%	100.0%
合計	度数	44	152	99	13	308
	%	14.3%	49.4%	32.1%	4.2%	100.0%

p=.178

少し内部生が「あてはまる」の方に偏っている。外部生は内部生に比べあまりあてはまらない・あてはまらないが若干多い。

それでは教員への質問という項目をみる。

表 14 内部生・外部生と教員への質問具合

教員に質問		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計
外部生	度数	17	79	100	35	231
	%	7.4%	34.2%	43.3%	15.2%	100.0%
内部生	度数	7	26	38	6	77
	%	9.1%	33.8%	49.4%	7.8%	100.0%
合計	度数	24	105	138	41	308
	%	7.8%	34.1%	44.8%	13.3%	100.0%

p=.178

表 14 でも若干内部生が高く、外部生はあてはまらないと答えている人が多い。これらを見て言えることは少し積極的という程度で、外部生は内部生に比べると質問もディスカッションへの参加もしない人が多いということである。

表 15 内部生・外部生と内定の数

		内定社数			
		内定なし	1社	2社以上	合計
外部生	度数	27	94	82	203
	%	13.3%	46.3%	40.4%	100.0%
内部生	度数	7	30	33	70
	%	10.0%	42.9%	47.1%	100.0%
合計	度数	34	124	115	273
	%	12.5%	45.4%	42.1%	100.0%

p=.561

積極的であるとすればそれが結果に結びついているのだろうか。内定取得数を外部生と内部生でみていくと、内部生が若干内定数が多く、外部生は1社だけもらった人が多いものの、内定社数とほとんど関係していない結果になった。どちらも内定が多い人は多いし、少ない人は少ないということだろう。1社だけでも内定がもらえれば就職活動自体やめるといっても少なくないため、そういった条件もからんできているように思われる。

6.8 就職先の条件

表 16 内部生・外部生と企業条件：会社の雰囲気

		会社の雰囲気		
		あてはまらない	あてはまる	合計
外部生	度数	87	90	177
	%	49.2%	50.8%	100%
内部生	度数	17	44	61
	%	27.9%	72.1%	100%
合計	度数	104	134	238
	%	43.7%	56.3%	100%

p=.004

このデータは最終的にどの会社をどういった面で決めたのかをきいたものである。内部生は就職先の条件として会社の雰囲気をより重視していることがこれによりわかる。有意確率も 0.004 と強い関連が見られている。

表 17 内部生・外部生と企業条件：給料

給料		あてはまらない	あてはまる	合計
外部生	度数	144	33	177
	%	81.4%	18.6%	100.0%
内部生	度数	46	15	61
	%	75.4%	24.6%	100.0%
合計	度数	190	48	238
	%	79.8%	20.2%	100.0%

p=.318

給料を重視する人は全体的に少ないが、若干外部生のほうが重視する方向ではある。それほど強い関連は見られない。

表 18 内部生・外部生と企業条件：会社の地域

働く場所		あてはまらない	あてはまる	合計
外部生	度数	113	64	177
	%	63.8%	36.2%	100.0%
内部生	度数	34	27	61
	%	55.7%	44.3%	100.0%
合計	度数	147	91	238
	%	61.8%	38.2%	100.0%

p=.261

表 18 は会社の場所である。これもあまり条件として重視する人はそこまで多くない。少し内部生が重視する方向に傾いている。これは大学も自宅から通う選択をした人が多いために、同じように会社も実家から行ける距離であることを重視したためだろうか。それとも東京などの都市部で働きたいという人が多いのか。様々な理由が考えられる。双方ともあまり重視していないのは、東京以外を選ぶと選択肢がぐっと減ってしまうこと、その中で仕事を探すような余裕がないことなどの社会的要因も挙げられるだろう。

表 19 内部生・外部生とビジネス誌を読むかどうか

ビジネス誌・経済誌を読む		よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	合計
外部生	度数	21	74	86	45	226
	%	9.3%	32.7%	38.1%	19.9%	100.0%
内部生	度数	3	16	33	25	77
	%	3.9%	20.8%	42.9%	32.5%	100.0%
合計	度数	24	90	119	70	303
	%	7.9%	29.7%	39.3%	23.1%	100.0%

p=.028

表 19 をみると外部生がビジネス・経済誌をより読んでいることが伺える。こういったところで知識が豊富かそうでないかがわかるだろう。政治経済に対する知識だけでなく難しい文章を要領よく理解できるか、数値を読み解く力、幅広い知識というのはやはり受験勉強をした外部生のほうが力をもっているのではないだろうか。小説などと違って興味があってもこれら雑誌はある一定の知識がないと読むことが難しい。この結果からは、外部生がより経済活動に感心を持ち、大学時代から働くこと・社会人になる準備をしているように思える。

それでは、卒業後に会社のために働くと考えている人という項目をみしてみる。

表 20 内部生・外部生と就業意識

会社のために働く		あてはまらない	あてはまる	合計
外部生	度数	117	110	227
	%	51.5%	48.5%	100.0%
内部生	度数	33	42	75
	%	44.0%	56.0%	100.0%
合計	度数	150	152	302
	%	49.7%	50.3%	100.0%

p=.257

表 20 をみるとむしろ内部生のほうが会社のために働くことに意識があることがわかる。ビジネス誌を読むということは、必ずしも社会にでて働くことを意識してのことではないようである。

6.9 終わりに

様々な面での内部生と外部生の違いを見てきたが、そこまで大きな違いというのは見られなかった。細かな部分で見ていくと、メディア学科の成績が、内部生がかなり高いこと、家が豊かだと答える内部生は外部生のそれより多いこと。アルバイトの期間が、外部生は短期が多いが、内部生は3年以上が多いこと。内部生は授業中に私語をする人が多いこと。板書以外の内容を筆記することに内部生は関心があり、外部生はあまり関心がない。他学部他学科に内部生は知り合いが多いことがわかったが、その他の友人関係は内部生も外部生も違いはない。ディスカッションへの参加意識は内部生が若干高いものの、より積極的だという断定ができるほどではなかった。就職先の条件として会社の雰囲気は内部生はより重要視し、給料、会社の場所などを考慮する人はどちらも少ない傾向にある。ビジネス誌を外部生はよく読むが、それが社会人になる準備のためということではないことがわかった。

大学受験のために猛烈に勉強した外部生と、中学・高校と個々に受験はあったものの少し違った勉強をしてきた内部生とであまり差がでていないのは意外だった。しかし何かを学ぶ、何かを選ぶ際の意識の違いは、板書以外の内容に関心を持つか否か、会社の雰囲気を重視するか否か、などの分析に反映されていたように思われる。

いくつかの分析でわかったことは、ある程度の人々の傾向はあるものだが、内部生か外部生かによってある程度傾向の違いはあるが、外部生だからこうだろう、といったことは必ずしも断定できるほどではないということがわかった。しかし、あえて共通する要素をあげてみるとすれば、内部生は下宿による家事労働をする必要がなく、引っ越しなどの必要性があまりない。それがアルバイトの長期化などに表れているのではないか。また大学は外部生に比べれば知り合いの数も多く、付き合いも長い人が多い。中・高の延長線上という意識が拭えないためにある程度場慣れがあるのではないか。それが質問のしやすさやディスカッションへの参加といった積極性につながってきているかもしれない。一貫校というのは人とのつながりの長さという面で双方に違いがでてくる。外部生と比べれば新しい環境への変化に慣れていない。そこが会社の選び方にも影響しているのではないか。内部生にしてみれば、環境の劇的な変化を経験するのは大学を卒業したときである。内部生と外部生では、中・高でどのような教育を受けてきたかというよりも、勉強以外の面、人とのつながり方に一番違いがあるのではないだろうか。